血液・造血器

科目責任者　今　井　陽　一
学年・学期　３学年・３学期

Ⅰ．前　　文

本講義で取り扱う血液学の主な対象は，①造血器（骨髄，リンパ節，脾）およびそこで産生される血球（赤血球，白血球，および血小板）とその異常，②止血機構（各種凝固因子の他，前項の血小板も含まれる）とその異常，および③細胞療法（輸血及び造血幹細胞移植）とに大別される。①と②の異常は通常血液疾患と呼ばれる。③の知識は血液疾患などに対する内科的治療のほか，外科手術にも必要とされる。

血液内科学は臨床の分野で最も早く分子生物学が導入された領域であり，その技術が診断（遺伝子診断）・治療（分子標的療法）に応用されている。これらの最先端の知識についても解説する。

三学年

Ⅱ．担当教員

内科学（血液・腫瘍）　（今　井　陽　一）
小児科学　（白　石　秀　明）
病理診断学　（石　田　和　之）
病理学　（矢　澤　卓　也）

Ⅲ．一般学習目標

① 血液疾患の理解に必要な血液学の基礎知識（造血機構，止血機構など）
② 国試ガイドラインに記載されている主な血液疾患の病態生理，診断および治療
③ 細胞療法（輸血・造血幹細胞移植）の基礎と実際について学習する。

Ⅳ．学修の到達目標

上述の学習目標を体系的に理解し，５年生における臨床実習に必要な知識を習得する。

Ⅴ．授業計画及び方法　＊（　）内はアクティブラーニングの番号と種類

（１：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
２：ディスカッション，ディベート　３：グループワーク　４：実習，フィールドワーク　５：プレゼンテーション
６：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者	アクティブラーニング
1	11	22	金	2	赤血球系疾患：貧血総論，鉄欠乏性貧血，鉄芽球性貧血，サラセミア，巨赤芽球性貧血	内科学（血液・腫瘍）佐々木　光	6：事前配布資料を読む
2		22	金	3	造血不全疾患：再性不良性貧血,赤芽球癆,自己免疫性溶血性貧血，発作性夜間ヘモグロビン尿症	内科学（血液・腫瘍）佐々木　光	6：事前配布資料を読む
3		22	金	4	赤血球系疾患：小児貧血，赤血球増多	小児科学 奥谷　真由子	6：事前配布資料を読む
4		22	金	5	白血球系疾患：急性白血病	内科学（血液・腫瘍）今井　陽一	6：事前配布資料を読む
5		26	火	1	白血球系疾患：リンパ球，リンパ組織とリンパ系腫瘍，悪性リンパ腫，成人T細胞性白血病，リンパ腫	内科学（血液・腫瘍）今井　陽一	6：事前配布資料を読む
6		26	火	2	白血球系疾患：慢性骨髄性白血病,真性赤血球増加症，本態性血小板血症，骨髄線維症	内科学（血液・腫瘍）牧　和宏	6：事前配布資料を読む
7		26	火	3	白血球系疾患：小児の白血球異常・白血病	小児科学 佐藤　雄也	6：事前配布資料を読む

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者	アクティブラーニング
8	11	26	火	4	白血球系疾患：血漿蛋白異常（多発性骨髄腫，マクログロブリン血症など）	内科学（血液・腫瘍） 今　井　陽　一	6：事前配布資料を読む
9		26	火	5	白血球系疾患：骨髄異形成症候群	内科学（血液・腫瘍） 三　谷　絹　子	6：事前配布資料を読む
10		27	水	1	出血・血栓傾向：総論	内科学（血液・腫瘍） 中　村　由　香	6：事前配布資料を読む
11		27	水	2	出血・血栓傾向：血小板異常，凝固異常，ＨＵＳ	内科学（血液・腫瘍） 中　村　由　香	6：事前配布資料を読む
12		27	水	3	出血・血栓傾向：総論 出血・血栓傾向：小児の出血性傾向	小　児　科　学 佐　藤　雄　也	6：事前配布資料を読む
13		27	水	4	造血幹細胞移植	内科学（血液・腫瘍） 瀬　尾　幸　子	6：事前配布資料を読む
14		27	水	5	輸血学：輸血関連検査，輸血の適応	内科学（血液・腫瘍） 今　井　陽　一	6：事前配布資料を読む

Ⅵ．評価基準（成績評価の方法・基準）

学期末試験の成績及び出席点

Ⅶ．教科書・参考図書・ＡＶ資料

参考書：「三輪　血液病学」浅野茂隆・池田康夫・内山　卓，分光堂　「必携血液内科診療ハンドブック」溝口秀昭，南江堂

Ⅷ．質問への対応方法

秘書をとおして事前にアポを取る。ただし，試験前の１週間は受けつけない。

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

Ⅹ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験の正答を公開する。試験の正答を公開する。

Ⅺ. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：30分

事後学習：30分

Ⅻ. コアカリ記号・番号

シラバス別冊を参照。